歯および喪失歯数0.4歯で，１人平均ＤＭＦ歯数は5.6歯と健常者（20～24歳8.0歯：厚生労働省平成17年歯科疾患実態調査）と比較しても良好な値を示した。

【考察および結論】１．SSにおける受診時間は約10分～15分の短時間で終了することが，ヘルシー・アスリート®・プログラムの中で最も受診者が多いことに寄与していると思われた。

２．SOに参加し，ヘルシー・アスリート®・プログラムを受診することがアスリートの口腔内環境のみならず，健康維持に関与しているものと思われた。

### 9）スペシャルオリンピックスに参加して ーその２　ボランティア・スタッフの意識調査ー

○佐々木重夫，釜田　朗，大桶　綾子，金澤　朋昭
小嶋　忠之，鈴木　翔，角田　隆太，福元　梨沙
三科祐美子，渡邉　崇，島村　和宏，齋藤　高弘
高橋　和裕，大野　敬
（奥羽大・歯・附属病院）

【緒　言】奥羽大学歯学部附属病院では平成24年２月10日，11日に福島県猪苗代町で開催された2012年第５回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム･福島大会（以下，SOと略す）にボランティアとして参加し，福島県歯科医師会，郡山歯科医師会および東北歯科専門学校から参加したボランティアと共同で，参加アスリート（知的障害者）に対するスペシャルスマイルズ（口腔部門：以下，SSと略す）において歯科健診やブラッシング指導などを行った。そこでSSに関与したボランティア・スタッフの知的障害者に対する意識を知る目的で質問紙調査を行った。

【方　法】平成24年２月10日，11日の２日間にSSに参加したボランティア・スタッフは20歳代から60歳代の男性34名，女性36名の合計70名で，職業は歯科医師（48.6％），歯科衛生士（34.3％），学生（12.9％），その他（4.2％）であった。知的障害者に対する意識調査には選択式10項目，自記式３項目の質問紙用紙を用いて，SS終了後に調査した。

【結　果】１．SO参加前に知的障害者に接した経験がある者は57.2％存在したが，経験がない者も42.8％認められた。

２．SOに参加することを楽しみとしていた者が60.2％であったのに対し，不安を持って参加した者も35.9％認められた。

３．SO参加後は貴重な体験ができて楽しかったと回答した者が91.4％認められ，90.0％の者がこのようなボランティア活動に参加したいと回答していた。

４．SO参加前の知的障害者へのイメージについては対応が難しいと回答した者が48.9％，また齲蝕が多いと回答した者も存在したが，参加後のイメージの変化としてアスリート達の素直で明るい性格や良好な口腔内に触れたことによって好印象になったと回答した者が62.8％認められた。また，健常者と変わらない，特別視はいけないなどの回答も認められた。

５．SO参加前に知的障害者に対して心のバリアはなかったと回答した者が63.8％存在したが，あったと回答した者も33.3％認められた。また，参加後の心のバリアの変化では少なくなったと回答した者が33.3％認められた。

【考察および結論】１．ボランティア・スタッフの多くの者はSOに参加することを楽しみとしていたが，知的障害者に対しての接点がないために不安を持って参加した者も存在した。

２．SO参加アスリートの口腔状態や性格などの良好なキャラクターに接したことがボランティア・スタッフの知的障害者に対するイメージの改善や心のバリアの払拭に寄与したものと思われた。

### 10）学習方法に関する学生と教員への同時アンケート調査ー総合学習Ⅱ・Ⅲー

○鈴木　史彦[1]，岡田　英俊[2]，茂呂祐利子[3]
前田　豊信[4]，横瀬　敏志[5]
（奥羽大・歯・口腔外科[1]，奥羽大・歯・生体材料[2]，
奥羽大・歯・生体構造[3]，奥羽大・歯・口腔機能分子生物[4]，
奥羽大・歯・歯科保存[5]）

【諸　言】学生を対象とした授業に関するアンケート調査は年度末に実施されることが多く，改善点は次年度の学年に適応される。しかし，年度内に学習方法に関するアンケート調査を学生と教員を